

もともと勉強は得意ではありませんでした。でも、看護の勉強は楽しい。どうして病気になるのか、病気ではないというのはどういうことなのか。それを知るための勉強は苦労だと思いません。



(プロフィール)

佐藤由紀子 氏

所属 赤心堂病院 助産師

勤続 8年目

卒業校

藤岡准看護学校 卒業

富岡看護専門学校 卒業

* 卒業後、看護師として7年勤務

高崎市医師会看護専門学校 助産学科卒業

会社勤めをされてから看護の道に進まれました。准看護学校入学からのひとつひとつの道程を、実直に、謙虚に語られた佐藤さんのこれまでの歩みについて伺いました。

—看護師を志したきっかけはなんですか

短期大学を卒業して一般の企業で働いていました。会社員生活を送る中で体調を崩してしまい、入院をしたのですが、その時の病院の医師・看護師をはじめと

するスタッフさんが皆さんとても素敵でした。看護学生さんにもいらして、真摯に対応していただきました。

それまでは、入院イコール病気の治療というイメージでしたが、医療スタッフの方々の接し方や、いただいた優しさに体を治すだけではなく、心まで支えてもらいました。

特に、看護師さんはいつでもそばに寄り添ってくださっていました。感動しましたし、とても救われて前向きな気持ちになりました。

この経験から、看護師という職業のすばらしさを知り、看護師を目指したいという気持ちを持ちました。

—看護の道へ入るにあたって、誰かに相談しましたか

はい。看護師になりたいと思い立ち、そのきっかけをくださった光病院(群馬県)の看護師の方々に思いを伝えました。「がんばってみなさいよ」「ぜひ、やってみて」というエールをたくさんいただきました。

応援を力に藤岡准看護学校に入学、准看護師の資格を取得して富岡看護専門学校で看護師になるための勉強をしました。

—その後、助産師資格の取得を目指されます

看護師資格を取得したあと、公立富岡病院と公立藤岡総合病院で勤務をしました。病院では、様々な診療科に異動しました。とても勉強になりましたが、一方で准看護学校の学生時代に実習で経験した助産のことが頭にありました。

命が誕生する瞬間に立ち会える、その魅力に心をうごかされ、いつか助産師に—そんな気持ちがありました。

看護師になって7年経った頃、受験の準備に入りました。昼間は仕事、夜は勉強というスケジュールで一年をかけた後に高崎市医師会看護専門学校の助産学科の門を叩きました。勤務先に助産師を目指す同期がいたので、二人で互いに声をかけあっていたことが励みになりました。

一 助産学科に在学中はいかがでしたか

働きながら学んでいたため、オンコールもありました。昼夜問わない生活となり、睡眠時間の確保に苦労しました。共に学ぶ仲間の家に泊りがけで集まって勉強をしたり、実習でもフォローしあうなど周囲と助け合っ

一 助産師になってからのことを聞かせてください

初めの半年間は、先輩について学びながら業務にあたりました。独り立ちしてお産を担当するようになり、緊張もしましたが、初めて赤ちゃんを取り上げた時には達成感がありました。嬉しかったです。

生まれてきた赤ちゃんに元気がない時などは落ち込んだこともあります。振り返りを欠かさず行うこと、またプリセプター(マンツーマンで指導にあたってくれる先輩)に話を聞いていただくなどして一つひとつ乗り越えてきました。今では、自分がプリセプターの立場にあります。新人さんとは年齢が離れていることもあるので伝え方に工夫は必要になりますが、教えることは自分の勉強にもなりますし、充実した毎日を過ごしています。

一 コロナ禍にあり、常と異なることも多いかと思いますが、いかがですか

当院の産婦人科では、一室をコロナ陽性妊婦さんのための陰圧室(室内が常に陰圧に保たれた診察室)に変更しています。私たち助産師は防護具を装備して助産にあたります。「大変でしょう」と訊かれますが、それは妊婦さんの方です。防護具をフルにつけていると声が届きにくく、不安になることがあるのではないかと思います。

また、私は母親学級が楽しくて好きなのですが、コロナ禍では実施を中止し、オリジナルの動画配信になっています。立ち合い分娩も同じく中止です。一方、産後には短い時間ではありますが、分娩後にご主人

との時間を作っています。ご家族の笑顔を見ることが出来る嬉しい時間です。

様々な制約はありますが、いまできることを模索しています。

一 看護師を目指している皆さんにメッセージをお願いします

特に働きながら看護師を目指している方は、両立が難しいことがあると思います。体力的にも厳しいこともあります。そんな時には一人で悩まずに周囲の人に相談しながら乗り越えてほしいと思います。学びの場には同期がたくさんいます。助け合ったり、刺激しあったりすることで前に進めるのではないかと思います。

(聞き手:看護を考える委員会 委員長 柿澤由紀子)



(上) 看護師長の金島さんと

(下) 笑顔で声を掛け合うナースステーション

学校での学びを実務に活かせることで、看護にやりがいを感じ、常に向上心を持ち続けた結果、どんな患者さんにも対応できる素晴らしい看護師となり、活躍しています。

今回のインタビューで、准看護師から始めた方の良いモデルとなれば幸いです。

病棟師長 金島 律子 様